

第1回 一宮川流域における令和5年台風13号による災害検証会議 主な意見及び対応方針（案）

No.	主な意見	対応方針（案）
浸水に関する情報収集について		
1	実際の浸水の様子をしっかりと、CCTVカメラだとか、または地域の住民のヒアリングみたいなものも含めて調査してほしい。堤防欠損部の影響、これを見るときには、果たしてどこから水が来たのかというのを、相当程度しっかり分析しないとイケない。シミュレーション結果を出して、地域の住民の方が見たら「いや、こんな方向から水来なかったけどな」みたいなことになってしまうとよろしくない。	住民にヒアリングを行うなど、浸水に関する情報収集をする。
2	画像や動画を集めていると思うが、当日の11時以降の水の流れについて、丹念に整理してもらいたい。全体的には内水が多いという印象があるが、局所的には流れがあるはずではないか。それらと併せてシミュレーションというように整理してもらいたい。	//
3	農業の実質的な経済被害などはどうか。	千葉県農林水産部が把握する農業被害の情報を整理

No.	主な意見	対応方針（案）
シミュレーションモデルについて		
4	<p>河道モデル図の三角形で示した流域の接合部が大事であるため、八千代のところでは相当程度しっかりやらないといけない。また、下水道の排水構造が考慮されているのか。これらは精緻にモデルに入れて、河川水位が高いので、逆流して内水が排水できなかった、といったような事を表せるモデルにする必要がある。</p> <p>目的に応じた、何をシミュレートしたいのかという目的に応じたモデルの組み方がある。</p>	<p>八千代地区については、内水の影響を適切に評価するため、下水道網を考慮した詳細モデルにより解析を行う。</p>
5	<p>八千代地区は小さい流域であるため、ティーセンでは、この範囲にどれだけ雨が降ったか正確にならないので、250mメッシュのXバンドレーダを使ってもらいたい。なお、レーダ雨量と観測雨量を比較して、必要があれば補正する。</p> <p>解析雨量が1キロメッシュと粗いが、地上雨量とは整合性が取れている。</p>	<p>地上雨量計のほか、各レーダ雨量を収集、比較する。</p>
6	<p>堤防欠損部の影響については、例えば25メートルメッシュだと、道路一路線が1メッシュ入るか入らないかとかいうすごく粗い感じになり、土のうの欠損部もメッシュによって入ったり入らなかったりするため、あのエリアだけ細かいメッシュ、一般論でいったら内外水氾濫モデルで、平面二次元計算を細かくやったほうがいい。</p>	<p>八千代地区については、内水の影響を適切に評価するため、下水道網を考慮した詳細モデルにより解析を行う。</p> <p>なお、欠損部自体は断面を追加することで、適切に評価する。</p>
7	<p>川幅とメッシュのスケールが合っているか確認してほしい。</p>	<p>一宮川の川幅約40~50m、阿久川の川幅約40m、豊田川の川幅約25m</p>
8	<p>キャリブレーションにあたって、令和元年と令和5年の両方で行ってほしい。</p>	<p>令和5年降雨とともに、令和元年降雨（降雨外力、河道条件は入れ替え）でもキャリブレーションする。</p>
9	<p>シミュレーションの限界というか、シミュレーションとは何かという、その特徴について、一般市民含めて、マスコミ含めてきちんと理解していただくということも、これはアウトプットを出していく中では非常に重要。</p> <p>シミュレーションというのは完璧じゃないというのをまず前提におこなきゃいけない。</p>	<p>注釈を入れるとともに、分かりやすさを考慮するなど、アウトプットの表現を工夫する。</p> <p>目的、氾濫の仕方を踏まえたモデルを構築する。</p>
10	<p>水理が専門の2委員に対しては、別途時間を設けて細かいところまで、モデルの詳細まで説明してほしい。</p>	<p>委員会前に個別相談を実施</p>

No.	主な意見	対応方針（案）
その他（シミュレーションのケースなど）		
11	今回のように上流に降ってから下流に降るといふ、浸水にとっては厳しい降雨についても、考慮していくことが大事。	今後の浸水対策のあり方のケーススタディの際に、いくつかの降雨パターン（強度、分布）で感度分析を行い、韌性の高いものにする。
12	（シミュレーションにおいて、）堤防欠損部について、欠損が無かった場合に、どれくらい浸水の仕方、浸水深が変わっていたのか、確認することが大事。穴を閉じれば当然溢れる量が減るので、若干水位が上がるかもしれない。穴を閉じていても堤防を超えなかったのか、超えたのかというところが大事な情報になる。	シミュレーションによりケーススタディを行い、確認する。
13	どこで水を貯めて、川でどのくらい流して、このくらい氾濫したという水収支の整理が課題ではないか。	動画・画像データによる事実確認と併せて、氾濫シミュレーションにより補完することで、氾濫水収支を把握する。